

第6号

年刊

月刊クリスマス

発行所 日本クリスマス協会
発行人 のびのぶ編集長
発行所 のびのぶ工房

日本クリスマス協会 栗須増子会長の挨拶

皆さま、ハッピーニューイヤーです。素敵なクリスマスとお正月を迎えたいらっしゃるでしょうか。のびのぶ編集長は、12月に南国病（症状：木陰でただポーツとしてしまう。お腹がすくと、隣に生えているバナナを食べ、たまに通る車に手を振る。カリブなど暑い国で感染することが多い。ワクチンはまだ発見されず）にかかり、昨年に引き続き、『月刊クリスマス』の発行が遅れてしまいました。11月末から行っていた「パナマ運河と東カリブクルーズ」の取材から、12月中旬に帰国し、この恐ろしい南国病を発症。毎年の使命である、クリスマス館のイルミネーション飾りとパーティーもせず、眠り続けてしまいました。ついでに言うと、クリスマス館は、クリスマスをはさんで1ヶ月間、なぜか「ペイントハウス中」。ドア以外は全部ビニールでグルグルに巻かれ、窓は1ミリも開きません。

ペンキの香りのなか、やっと23日に目覚め、クリスマスツリーを飾った……という、日本クリスマス協会・会長にあるまじき怠慢をいたしました。楽しく正しいクリスマス館の発展のために各支部でがんばっていた支局長の皆さん、ごめんなさい。会長、来年はがんばりますです。というところで、昨年、文部省に申請していた「フィンランドにおけるサンタ研究」は実施されませんでした。「今年『月刊クリスマス』で発表するアカデミックな研究がないわ」と、しょんぼりしていたのびのぶ編集長ですが、よく

考えるとありました。

トナカイと感動の対面

そうです。のびのぶ編集長は6月にアラスカに「クリスマス・オアシス」におけるトナカイの仕事について研究に行っていたのです。そしてスキヤグウェイという町からポートで1時間ほど川を上ったところで、トナカイと感動の対面を果たしたのです。現地の人でも、なかなかお目にかかれないというトナカイですが、のびのぶ編集長は赤ちゃんとトナカイ2匹、お母さんトナカイ1匹と遭遇。「ああ、オアシスには子育てしてるのね」と納得して帰ってきました。

しかしです……この報告書を書くために、もう一度、調べてみると、のびのぶ編集長が会ったのは、「ムース（大鹿・ヘラジカ）」という種類。トナカイは「トナカイ」という種類の別の鹿であることが判明。ショック……。

というわけで、今年こそはフィンランドでホントの「トナカイ」に会って、「クリスマス以外は何やってるんですか」と聞いてみたいと思います。

皆さまも早く日本クリスマス協会に入って、クリスマス館の研究をいたしましょう。



2000年MYツリーは「ミレニアム&アラスカツリー」

ペンキのなかから目覚めたのびのぶ編集長、おもむろにインターネットで「210cmのホワイトツリー」を注文。クリスマス1週間前だったから、値段はなんと4980円！そこへアラスカで買った「アラスカ・動物オーナメント」と、南青山の道端で売っていた「2000」と刺しゅうされたボールを飾り、「ミレニアム・アラスカツリー」となりました。文芸評論家の大多和・狛江支局長がハワイで買ってきてくれた「ワナー2000年オーナメント」も加わりました。

6年間大役を務めたグリーンツリーは、ベイビーの生まれた青森のスーちゃん家へ飾られることになりました。



かわいい親子のムース。

なんと！ごまちゃん帽子も発見。



ごまちゃんが集まりました

カナダへごまちゃんに会いに行ってから約2年。「ああ、ごまちゃんをもう一度さわりたい」と思っていたところ、某ぬいぐるみメーカーの広報の方がごまちゃんぬいぐるみを送って来てくれました。どうやら、のびのぶ編集長が、展示会でごまちゃんの前に立ちつくしていたため、わざわざ送って来たのでした。その後、ごまちゃんがごまちゃんを呼び、クリスマス館は「ごまちゃん御殿」になりました。どれもつづらな贈です。

8時だよごまちゃん大集合



のびのぶのニユレ「のら犬写真家」

のら犬写真家を目指して、日々頑張るのびのぶ編集長ですが、2000年は、愛犬雑誌『ドッグ・ワールド』（成美堂出版）で、Dr米山が書く「ワン・ストーリー」の犬を1年間撮り続けました。いつもバッグに小さいカメラを入れて、ナイスな、のら犬や老犬がいると林家ペーさん並みに激写しました。日本橋の高層ビルの屋上に住んでるおじいさん犬や、なぜか、コンビニで買物をしていく犬などがいました。



『犬はどこと？』(廣済堂出版) 林文二さん 日本素朴すぎる犬たちと風景と、その細かい記録。この本も右の本も、40年以上にわたって犬を撮り続けている方々の本の、のびのぶ編集長、まだまだ修行が足りませぬ。



『DOG DOGS』(PHAIDON) ELLIOTT ERWITTさん 世界の街の犬写真が延々と続く。飼い犬はなぜか飼い主に似ていることが分かる、どれもナイスな写真。でも5cmくらいの厚さの本なので見ると途中で疲れます……

好評連載・読み切り第6弾 ムースがやってくる日 米山公啓

「見たのは、アラスカを旅行していた時だったな」 紀村洋二は肩の力を抜くように大きなため息を吐いた。長い旅行から日本に戻ったところだった。まだ疲れが残っているのか、目の下にはクマが残っている。 「あの有名なムース（へら鹿）を見たんですって」 訊いたのは大学四年の美香子だった。紀村は写真家として、仕事を始めて二年が経った。恋人とより、大切な先輩と出会った。日本に帰ってくると必ず、紀村と会っていた。 一年前に紀村は八ヶ岳の別荘地に小さな山小屋建てて、日本に戻ると、数名の仲間と一緒にそこで話をするのが習慣となっていた。 日本は居場所が必要ないということと、紀村の家はこの小さな山小屋だったのだ。 「ムースは臆病な生き物だから、なかなか出会うのは大変なんだ。そのムースの中でも幻のムースと呼ばれていたホワイトムースに出会ったんだから驚いたよ」 「いいなあ。私はいろんな動物に会いに行っているけど、まだムースって見たことがない」 美香子がうらやましそうに言う。 「ここがけじゃないの」 紀村はヒゲだらけの顎を撫でる。 「意地悪な言い方ね」 「ハワイでイルカと遊んだし、アフリカで象を見たわ、ムースはまだなんだな」 「ムースは人になつかないから、観光用にはなりにくいんだろな」 紀村は撮ってきた写真を見せている。 「紀村さんはいいよな。好きなこと食べていけるんだから」 紀村の大学時代同級生だった細野が言う。細野は商社に勤めていたが、最近仕事で面白くないとこぼしていた。 「将来の保証はないけど、だれも制約しないから、面白いと言えは面白いな」

紀村は会社という組織を嫌って、大学卒業と同時にカメラマンになった。普通なら、プロのカメラマンの下で見習いとして働くのだが、学生時代からかなり勉強しコネをつけていたので、独立してやっていける自信があった。 「ムースはさ、自由に生きることの象徴のように思うなあ」 紀村は窓の外を眺めながら言う。暖炉には薪が赤々と燃えている。狭いながらも、自分の城だと思っていた。 「ここにムースが現れるといいな」 窓ガラスに鼻をこすりつけるようにして、美香子は外を眺める。 「自由に生きている人間の前には現れるのさ」 紀村は薪を暖炉にくべた。火の粉が舞ってパチパチと音を立てた。 「俺も転職を考えようかな……」 細野はソファの上で大きなのびをする。外を眺めていた美香子が大声をだした。 「ねえ、いまだで何か動いたわ。ムースかしら」 「馬鹿な、いるわけないじゃないか。ウサギか、鹿だろ」 細野は笑っている。 「いや、わからないぜ。美香子にもムースが訪れたのかもしれない」 「ホント？」 美香子はダウンを着ると、雪に覆われた外に出た。寒さを感じなかった。雪の向こうには、きつとムースが待っているような気がしていた。 やんでいた雪がまた降り出した。 美香子はじつと闇の向こうを眺め続けた。

GOLD MEMBER'S CARD YONEYONE CLUB
米山公啓 (よねやまきみひろ) 作家・医師。2000は19冊の本を上梓。赤坂にファンクラブ(1000名突破)専用のラウンジも作りました。50冊以上の著書を持つファン向けにゴールドカードも作りました。 ホームページのアドレス: www.yoneyone.jp yoneyone@yoneyone.jp (日刊よねよね新聞とメルマガが大好き！イモードでも見れるよ)

紀村は会社という組織を嫌って、大学卒業と同時にカメラマンになった。普通なら、プロのカメラマンの下で見習いとして働くのだが、学生時代からかなり勉強しコネをつけていたので、独立してやっていける自信があった。 「ムースはさ、自由に生きることの象徴のように思うなあ」 紀村は窓の外を眺めながら言う。暖炉には薪が赤々と燃えている。狭いながらも、自分の城だと思っていた。 「ここにムースが現れるといいな」 窓ガラスに鼻をこすりつけるようにして、美香子は外を眺める。 「自由に生きている人間の前には現れるのさ」 紀村は薪を暖炉にくべた。火の粉が舞ってパチパチと音を立てた。 「俺も転職を考えようかな……」 細野はソファの上で大きなのびをする。外を眺めていた美香子が大声をだした。 「ねえ、いまだで何か動いたわ。ムースかしら」 「馬鹿な、いるわけないじゃないか。ウサギか、鹿だろ」 細野は笑っている。 「いや、わからないぜ。美香子にもムースが訪れたのかもしれない」 「ホント？」 美香子はダウンを着ると、雪に覆われた外に出た。寒さを感じなかった。雪の向こうには、きつとムースが待っているような気がしていた。 やんでいた雪がまた降り出した。 美香子はじつと闇の向こうを眺め続けた。